

数学C 平面ベクトル No.1

名前 _____

- 1 [共線の証明] 直方体 ABCD-EFGH において、辺 CD を $1:2$ に内分する点を P、辺 EF の中点を Q、線分 PQ を $4:3$ に内分する点を R とする。また、辺 FG を $3:1$ に内分する点を S とする。このとき、3 点 A, R, S は同一直線上にあることを証明しなさい。

数学C 平面ベクトル No.1

解答

- 1 [共線の証明] 直方体 ABCD-EFGH において、辺 CD を 1:2 に内分する点を P、辺 EF の中点を Q、線分 PQ を 4:3 に内分する点を R とする。また、辺 FG を 3:1 に内分する点を S とする。このとき、3 点 A, R, S は同一直線上にあることを証明しなさい。

考え方 $\vec{AS} = k\vec{AR}$ (k は実数) を示せばよい。

解答 点 A を始点とする点 B, D, E, P, Q, R, S の位置ベクトルを

それぞれ \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} , \vec{p} , \vec{q} , \vec{r} , \vec{s} とする。

\vec{p} , \vec{q} , \vec{r} を, \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} で表すと,

$$\vec{p} = \frac{2}{3}\vec{b} + \vec{d}$$

$$\vec{q} = \frac{1}{2}\vec{b} + \vec{e}$$

$$\vec{r} = \frac{3}{7}\vec{p} + \frac{4}{7}\vec{q}$$

$$= \frac{3}{7}\left(\frac{2}{3}\vec{b} + \vec{d}\right) + \frac{4}{7}\left(\frac{1}{2}\vec{b} + \vec{e}\right)$$

$$= \frac{4}{7}\vec{b} + \frac{3}{7}\vec{d} + \frac{4}{7}\vec{e} \quad \cdots \text{①}$$

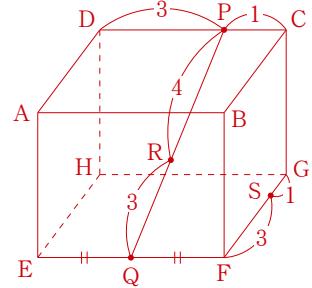
\vec{s} を, \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} で表すと,

$$\vec{s} = \vec{b} + \frac{3}{4}\vec{d} + \vec{e} \quad \cdots \text{②}$$

①, ② より,

$$\vec{s} = \frac{7}{4}\vec{r}$$

すなわち, $\vec{AS} = \frac{7}{4}\vec{AR}$ なので, 3 点 A, R, S は同一直線上にある。 … 終



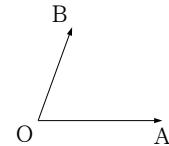
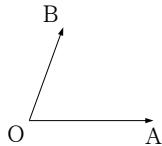
数学C 平面ベクトル No.2

名前 _____

1 [点の存在範囲] 平面上に定点 O , A , B がある。 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で, s, t が次の条件を満たすとき, 点 P の存在する範囲を求めなさい。

(1) $s + t = 2, s > 0, t > 0$

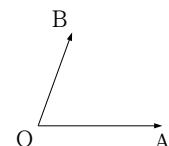
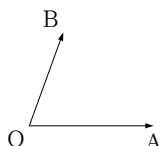
(2) $t = 2s, s > 0, t > 0$



2 [点の存在範囲] 平面上に定点 O , A , B がある。 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で, s, t が次の条件を満たすとき, 点 P の存在する範囲を求めなさい。

(1) $0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 2$

(2) $1 < s + t < 2, s > 0, t > 0$

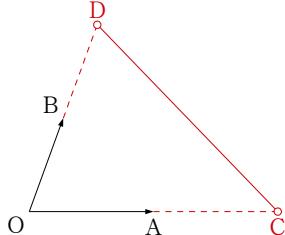


数学C 平面ベクトル No.2

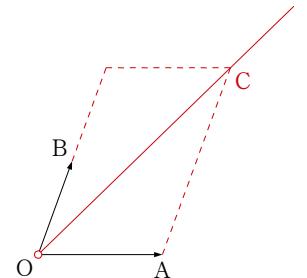
解答

1 [点の存在範囲] 平面上に定点 O, A, B がある。 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で、 s, t が次の条件を満たすとき、点 P の存在する範囲を求めなさい。

(1) $s + t = 2, s > 0, t > 0$



(2) $t = 2s, s > 0, t > 0$

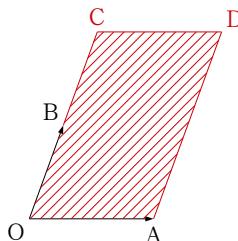


答 $\overrightarrow{OC} = 2\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OD} = 2\overrightarrow{OB}$ とするとき、
線分 CD (ただし両端は含まない)

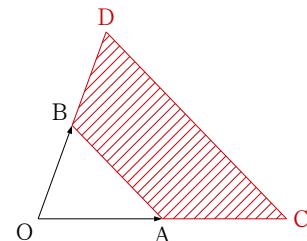
答 $\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OA} + 2\overrightarrow{OB}$ とするとき、
半直線 OC (ただし端点 O は含まない)

2 [点の存在範囲] 平面上に定点 O, A, B がある。 $\overrightarrow{OP} = s\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$ で、 s, t が次の条件を満たすとき、点 P の存在する範囲を求めなさい。

(1) $0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 2$



(2) $1 < s + t < 2, s > 0, t > 0$



答 $\overrightarrow{OC} = 2\overrightarrow{OB}, \overrightarrow{OD} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OC}$ とするとき、
平行四辺形 OADC の内部および周

答 $\overrightarrow{OC} = 2\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OD} = 2\overrightarrow{OB}$ とするとき、
台形 ACDB の内部 (ただし周は含まない)

数学C 空間ベクトル No.1

名前 _____

- 1 [共線の証明] 直方体 ABCD-EFGH において、辺 CD を $1:2$ に内分する点を P、辺 EF の中点を Q、線分 PQ を $4:3$ に内分する点を R とする。また、辺 FG を $3:1$ に内分する点を S とする。このとき、3 点 A, R, S は同一直線上にあることを証明しなさい。

数学C 空間ベクトル No.1

解答

- 1 [共線の証明] 直方体 ABCD-EFGH において、辺 CD を 1:2 に内分する点を P、辺 EF の中点を Q、線分 PQ を 4:3 に内分する点を R とする。また、辺 FG を 3:1 に内分する点を S とする。このとき、3 点 A, R, S は同一直線上にあることを証明しなさい。

考え方 $\vec{AS} = k\vec{AR}$ (k は実数) を示せばよい。

解答 点 A を始点とする点 B, D, E, P, Q, R, S の位置ベクトルを

それぞれ \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} , \vec{p} , \vec{q} , \vec{r} , \vec{s} とする。

\vec{p} , \vec{q} , \vec{r} を, \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} で表すと,

$$\vec{p} = \frac{2}{3}\vec{b} + \vec{d}$$

$$\vec{q} = \frac{1}{2}\vec{b} + \vec{e}$$

$$\vec{r} = \frac{3}{7}\vec{p} + \frac{4}{7}\vec{q}$$

$$= \frac{3}{7}\left(\frac{2}{3}\vec{b} + \vec{d}\right) + \frac{4}{7}\left(\frac{1}{2}\vec{b} + \vec{e}\right)$$

$$= \frac{4}{7}\vec{b} + \frac{3}{7}\vec{d} + \frac{4}{7}\vec{e} \quad \cdots \text{①}$$

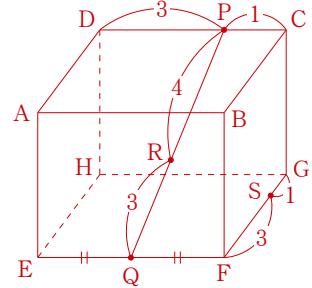
\vec{s} を, \vec{b} , \vec{d} , \vec{e} で表すと,

$$\vec{s} = \vec{b} + \frac{3}{4}\vec{d} + \vec{e} \quad \cdots \text{②}$$

①, ② より,

$$\vec{s} = \frac{7}{4}\vec{r}$$

すなわち, $\vec{AS} = \frac{7}{4}\vec{AR}$ なので, 3 点 A, R, S は同一直線上にある。 … 終



数学C 空間ベクトル No.2

名前 _____

1 [点と平面の距離] 4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 2, 0)$, $B(2, 0, 1)$, $C(0, 1, 1)$ を頂点とする四面体 $OABC$ について、次の問いに答えなさい。

- (1) 平面 ABC の方程式を求めなさい。
- (2) 点 O と平面 ABC の距離 h を求めなさい。
- (3) $\triangle ABC$ の面積 S を求めなさい。
- (4) 四面体 $OABC$ の体積 V を求めなさい。

数学C 空間ベクトル No.2

解答

1 [点と平面の距離] 4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 2, 0)$, $B(2, 0, 1)$, $C(0, 1, 1)$ を頂点とする四面体 $OABC$ について、次の問いに答えなさい。

(1) 平面 ABC の方程式を求めなさい。

解答 平面 ABC の方程式を $ax + by + cz + d = 0$ とおく。…… ①

$A(1, 2, 0)$, $B(2, 0, 1)$, $C(0, 1, 1)$ をそれぞれ代入すると、

$$\begin{cases} a + 2b + d = 0 \\ 2a + c + d = 0 \\ b + c + d = 0 \end{cases}$$

これを a , b , c について解くと、

$$a = -\frac{1}{5}d, \quad b = -\frac{2}{5}d, \quad c = -\frac{3}{5}d$$

①に代入すると、

$$-\frac{1}{5}dx - \frac{2}{5}dy - \frac{3}{5}dz + d = 0$$

$$dx + 2dy + 3dz - 5d = 0$$

$$d(x + 2y + 3z - 5) = 0$$

$$d = 0 \text{ または } x + 2y + 3z - 5 = 0$$

$d = 0$ のときは $a = b = c = 0$ となり、①が平面を表さないので、 $d \neq 0$

よって、平面 ABC の方程式は、 $x + 2y + 3z - 5 = 0$ … 答

(2) 点 O と平面 ABC の距離 h を求めなさい。

解答 $h = \frac{|-5|}{\sqrt{1^2 + 2^2 + 3^2}}$ ← 点と平面の距離の公式
 $= \frac{5}{\sqrt{14}}$ … 答

(3) $\triangle ABC$ の面積 S を求めなさい。

解答 $\vec{AB} = (1, -2, 1)$, $\vec{AC} = (-1, -1, 1)$ より、

$$|\vec{AB}|^2 = 1 + 4 + 1 = 6$$

$$|\vec{AC}|^2 = 1 + 1 + 1 = 3$$

$$\vec{AB} \cdot \vec{AC} = -1 + 2 + 1 = 2$$

よって、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{6 \cdot 3 - 2^2} \\ &= \frac{\sqrt{14}}{2} \quad \text{… 答} \end{aligned}$$

(4) 四面体 $OABC$ の体積 V を求めなさい。

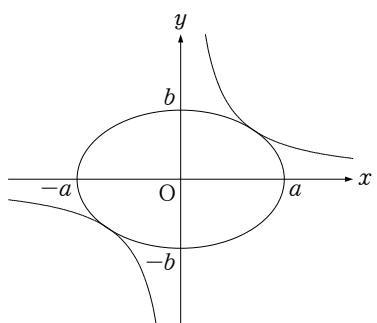
解答 $V = \frac{1}{3}Sh = \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{14}}{2} \cdot \frac{5}{\sqrt{14}} = \frac{5}{6}$ … 答

数学C 平面上の曲線 No.1

名前 _____

1 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) が双

曲線 $xy = 1$ に接するための, a, b の条件を求めなさい。また,
接点の座標を求めなさい。



数学C 平面上の曲線 No.1

解答

- 1 [媒介変数表示の利用] 楕円 $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > 0, b > 0$) が双曲線 $xy = 1$ に接するための, a, b の条件を求めなさい。また, 接点の座標を求めなさい。

解答] 第1象限で接しているとき, 同時に第3象限でも接するので, 第1象限だけで考える。

第1象限にある楕円上の点を媒介変数 θ を使って,

$$(a\cos\theta, b\sin\theta) \quad \text{ただし, } 0 < \theta < \frac{\pi}{2}$$

と表す。

$x = a\cos\theta, y = b\sin\theta$ を $xy = 1$ に代入すると,

$$a\cos\theta \cdot b\sin\theta = 1$$

$$\frac{1}{2}ab\sin 2\theta = 1 \quad \leftarrow \sin の 2 倍角の公式を逆向きに使った$$

$$\sin 2\theta = \frac{2}{ab} \cdots \textcircled{1}$$

①を θ についての方程式とみる。

楕円と双曲線が接する

\iff 第1象限内に楕円と双曲線の共有点が1つしかない

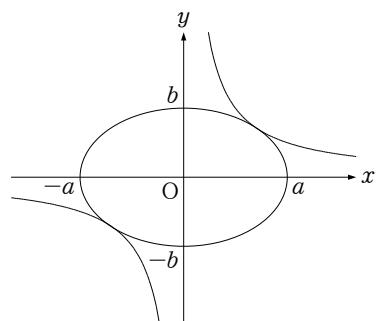
\iff 方程式①が $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ の範囲に実数解を1つだけもつ $\cdots \textcircled{2}$

条件②を満たすのは, $\frac{2}{ab} = 1$ のときである。

よって, 求める条件は, $ab = 2 \cdots \textcircled{3}$

また, その解は $\theta = \frac{\pi}{4}$ なので, 接点の座標は,

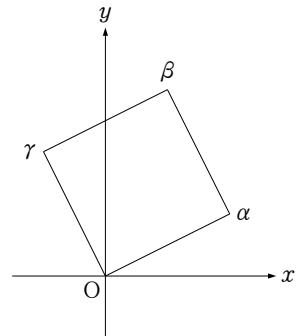
$$\left(\frac{\sqrt{2}}{2}a, \frac{\sqrt{2}}{2}b \right), \left(-\frac{\sqrt{2}}{2}a, -\frac{\sqrt{2}}{2}b \right) \cdots \textcircled{4}$$



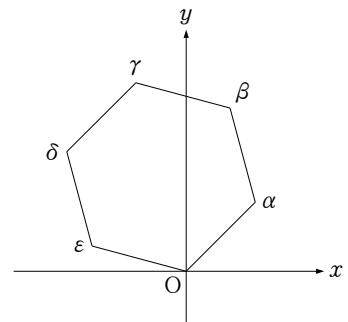
数学C 複素数平面 No.1

名前 _____

- 1 [原点を中心とする回転と拡大] $\alpha = 4 + 2i$ とする。O から左回りに点 α, β, γ をとって正方形をつくるとき、 β, γ を表す複素数をそれぞれ求めなさい。



- 2 [原点を中心とする回転と拡大] $\alpha = 1 + i$ とする。O から左回りに点 $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \varepsilon$ をとって正六角形をつくるとき、 β, γ を表す複素数をそれぞれ求めなさい。



数学C 複素数平面 No.1

解答

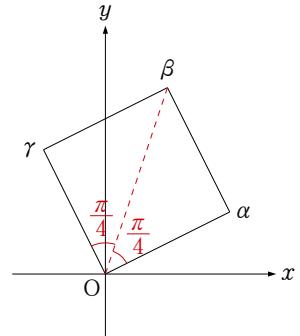
- 1 [原点を中心とする回転と拡大] $\alpha = 4 + 2i$ とする。O から左回りに点 α, β, γ をとって正方形をつくるとき、 β, γ を表す複素数をそれぞれ求めなさい。

解答 点 β は、点 α を原点を中心 $\frac{\pi}{4}$ 回転し、 $\sqrt{2}$ 倍に拡大した位置にあるので、

$$\begin{aligned}\beta &= \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right) \alpha \\ &= \sqrt{2} \left(\frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{1}{\sqrt{2}} i \right) (4 + 2i) \\ &= (1+i)(4+2i) \\ &= 2+6i \quad \cdots \text{答}\end{aligned}$$

点 γ は、点 α を原点を中心 $\frac{\pi}{2}$ 回転した位置にあるので、

$$\begin{aligned}\gamma &= \left(\cos \frac{\pi}{2} + i \sin \frac{\pi}{2} \right) \alpha \\ &= (0+i)(4+2i) \\ &= -2+4i \quad \cdots \text{答}\end{aligned}$$



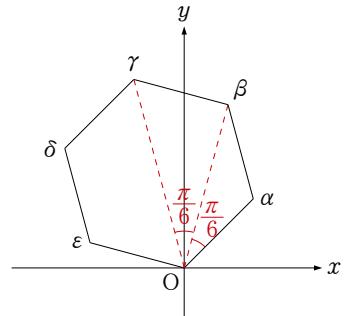
- 2 [原点を中心とする回転と拡大] $\alpha = 1+i$ とする。O から左回りに点 $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \varepsilon$ をとって正六角形をつくるとき、 β, γ を表す複素数をそれぞれ求めなさい。

解答 点 β は、点 α を原点を中心 $\frac{\pi}{6}$ 回転し、 $\sqrt{3}$ 倍に拡大した位置にあるので、

$$\begin{aligned}\beta &= \sqrt{3} \left(\cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) \alpha \\ &= \sqrt{3} \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} i \right) (1+i) \\ &= \frac{3-\sqrt{3}}{2} + \frac{3+\sqrt{3}}{2} i \quad \cdots \text{答}\end{aligned}$$

点 γ は、点 α を原点を中心 $\frac{\pi}{3}$ 回転し、2倍に拡大した位置にあるので、

$$\begin{aligned}\gamma &= 2 \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3} \right) \alpha \\ &= 2 \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2} i \right) (1+i) \\ &= 1-\sqrt{3} + (1+\sqrt{3})i \quad \cdots \text{答}\end{aligned}$$



参考 δ はデルタ、 ε はイプシロンと読む。

数学C 複素数平面 No.2

名前 _____

- 1 [ジューコフスキーチェン] $a > 0, r > 0$ とする。点 z が原点を中心とする半径 r の円周上を動くとき、
 $w = z + \frac{a^2}{z}$ で表される点 w はどのような図形を描くか。

数学C 複素数平面 No.2

解答

1 [ジューコフスキイ変換] $a > 0, r > 0$ とする。点 z が原点を中心とする半径 r の円周上を動くとき, $w = z + \frac{a^2}{z}$ で表される点 w はどのような図形を描くか。

解答 $z = r(\cos\theta + i\sin\theta)$ ($0 \leq \theta < 2\pi$) と表すと,

$$\begin{aligned} w &= z + \frac{a^2}{z} \\ &= r(\cos\theta + i\sin\theta) + \frac{a^2}{r} \{ \cos(-\theta) + i\sin(-\theta) \} \\ &= r(\cos\theta + i\sin\theta) + \frac{a^2}{r} (\cos\theta - i\sin\theta) \\ &= \left(r + \frac{a^2}{r}\right) \cos\theta + i \left(r - \frac{a^2}{r}\right) \sin\theta \end{aligned}$$

$w = x + yi$ (x, y は実数) とおくと,

$$\begin{aligned} x &= \left(r + \frac{a^2}{r}\right) \cos\theta \\ y &= \left(r - \frac{a^2}{r}\right) \sin\theta \end{aligned}$$

(i) $r \neq a$ のとき

$$\begin{aligned} \cos\theta &= \frac{x}{r + \frac{a^2}{r}} \\ \sin\theta &= \frac{y}{r - \frac{a^2}{r}} \quad \leftarrow r - \frac{a^2}{r} \neq 0 \text{ より} \end{aligned}$$

これを $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ に代入すると,

$$\frac{x^2}{\left(r + \frac{a^2}{r}\right)^2} + \frac{y^2}{\left(r - \frac{a^2}{r}\right)^2} = 1$$

よって, 点 w はこの方程式が表す橿円を描く。…答

(ii) $r = a$ のとき

$$x = 2a\cos\theta$$

$$y = 0$$

$-1 \leq \cos\theta \leq 1$ より, $-2a \leq x \leq 2a$

よって, 点 w は 2 点 $-2a$ と $2a$ を結ぶ線分を描く。…答

参考 橿円のとき, 焦点の座標を $(c, 0), (-c, 0)$ (ただし $c > 0$) とすると,

$$\begin{aligned} c^2 &= \left(r + \frac{a^2}{r}\right)^2 - \left(r - \frac{a^2}{r}\right)^2 = 4a^2 \\ c &= 2a \end{aligned}$$

よって, 焦点の座標は $(2a, 0), (-2a, 0)$ である。

また, 橿円上の点の 2 焦点からの距離の和を l とすると, 相加平均・相乗平均の関係より,

$$l = 2\left(r + \frac{a^2}{r}\right) \geq 2\sqrt{2r \cdot \frac{2a^2}{r}} = 4a$$

等号が成り立つの $r = a$ のときであり, このときは橿円ではなく線分である。